

水曜通信40

東北学院宗教センター編

2024年
9月

第75回 水曜公開礼拝

2024年9月18日(水) 18:30-19:00

<礼拝次第>

前奏：J. S. バッハ作曲

《バビロン川のほとりで》BWV653b

讃美歌：7番 「主のみいつとみさかえとを」

聖書：マタイによる福音書 13章44-46節

讃美歌：501番 「いのちのみことば」

説教：「埋もれた宝を活用する」

頌栄：540番 「みめぐみあふるる」

後奏：J. S. バッハ作曲

《あわれみたまえ、聖霊なる神よ》BWV671



説教
大学宗教主任
藤野 雄大



奏楽・第2部演奏
礼拝オルガニスト
山司 恵莉子

後奏の後、山司 恵莉子氏 (礼拝オルガニスト) によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第76回水曜公開礼拝は10月16日です。

第74回 水曜公開礼拝報告（説教：大門 耕平、奏楽：渡辺 真理）

2024年7月17日（水） 18：30 - 19：00

讃美歌：452番 「ただしくきよくあらまし」
聖書：マタイによる福音書 26章47-52節
讃美歌：453番 「きげやあいのことばを」
説教：「剣を鞘に納めない」
頌栄：542番 「よをこぞりて」



【説教要旨】

キリスト教の歴史を振り返るとき、そこには、正戦論と聖戦論の類型を見ることができます。敵からの攻撃に対する武力行為を正しいとする正戦論、神の名のもとに行われる聖戦論、どちらもある条件によって戦争、すなわち、武力行為を肯定するものです。しかしながら、聖書におけるイエスの言動においては、どのような武力をも否定する言葉を見ることができます。本日の聖書箇所にも「剣を鞘に納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。」という武力を否定するイエスの言葉が記されています。現在、世界では戦争・紛争が生じています。武力が必要なものという認識が広がっているように感じます。このような時代の中で、今一度、イエスの言葉を想起し、私たちの取るべき行動を考えていきたいと思います。

（大学宗教主任 大門 耕平）

前奏：シャイデマン作曲 「天にまします我らの父よ」

ハンブルクの聖カタリーナ教会のオルガニストを勤めた北ドイツオルガン学派を代表する作曲家シャイデマン（1595-1663）の「主の祈り」をモチーフにしたコラル前奏曲です。



後奏：G. ベーム作曲 「全ての栄光は高さ神にあれ」

ゲオルク・ベーム（1661-1733）はテューリンゲンのオルガニストでしたが、一時期ハンブルクで勤めていました。「全ての栄光は神のみに」は初期ルター派の賛美歌で、ミサのラテン語のグロリアをドイツ語に言い換えたものです。

（礼拝オルガニスト 渡辺 真理）

礼拝とその後19時から19時30分までの渡辺真理氏によるオルガンによる賛美に36名の方が参加されました。

礼拝後、音楽による賛美（オルガン演奏：渡辺 真理）

1. N. ブルース作曲 前奏曲ホ短調
2. N. ブルース作曲 アダージョ
3. F. メンデルスゾーン作曲 コラル変奏曲ニ長調

1年ぶりに五橋から土樋ラーハウザー礼拝堂の礼拝奏楽担当に戻ってきて、ベッケラート社（ハンブルク）のオルガンと礼拝堂の響きの美しさにあらためて魅せられています。今回は短い生涯ながら素晴らしい作品を残した北ドイツ出身の作曲家の作品で、その豊かな響きを味わってみたいと思います。

ブルース（1665-97）はブクステフーデに学んだ北ドイツオルガン楽派の一人です。前奏曲ホ短調は規模の大小で2曲ありますが、本日は2つのフーガを持つ大規模の方を演奏します。続く短いながら非常に美しい作品のアダージョは、前奏曲の断片と解釈されていますがメロディには演奏台正面のブルストヴェルクの優しい響きを用いてみようと思います。

時代を19世紀に移し、ハンブルクで生まれたメンデルスゾーン（1809-47）の「全能なる神のみわざは大いなるか」のコラル変奏曲は、18世紀に作られたコラルと3つの変奏から成る、神童メンデルスゾーン14歳時に書かれた生き生きとした作品です。

（渡辺 真理）



— 建築が語る東北学院の歴史 (31) —

現在、土樋キャンパスで既存建物（2号館・3号館・4号館など）の解体工事が行われています。その過程で意外な場所から歴史的遺構が見つかり、工事の合間にゼミ生たちと調査を行いました。今回はその結果を報告したいと思います。

遺構が見つかったのは、本館と礼拝堂と2号館の間に架かる渡り廊下の一部です。この渡り廊下は礼拝堂と同じ昭和7年（1932）まで遡るものなのですが、当初は現在のような屋根付きの屋外通路ではなく、壁と屋根に覆われた内部空間になっていました（その部分の地下には当時から設備配管用のトンネルがあり、現在も使用されています）。今回、工事に伴って渡り廊下の天井の一部を解体したところ、その奥から竣工当初のものと思われる屋根部材・防水材料・雨樋・壁面装飾（礼拝堂の外壁と同じもの）が見つかったのです。部材を確認すると、2号館の竣工（昭和28年）に際して屋根の形を変えた痕や、途中で切断されたままの木柱などが生々しく残っており、これが数度の増改築を経て現在に伝わっていることを教えてくれます。技術的・法律的な制約から現地で全てを保存することはできませんが、一部の痕跡と調査の記録が歴史を伝える証人として残されます。（工学部 崎山 俊雄）



fig1 現場全景。上部の鉄骨より奥に竣工時の部材が残る。左の柱の中にも竣工時の雨樋と装飾壁が残存（崎山撮影）



fig2 屋根部材の拡大（崎山撮影）

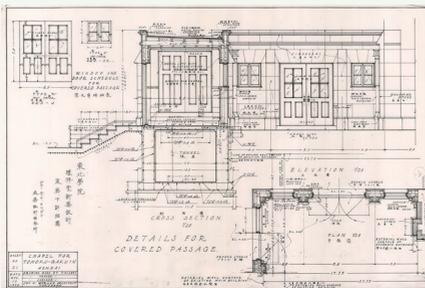


fig3 当初設計図（東北学院史資料センター蔵）

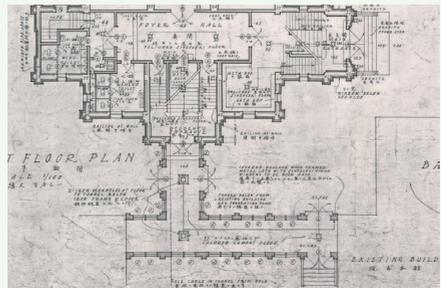


fig4 当初設計図（東北学院史資料センター蔵）
※原図を一部トリミングして掲載

旧約聖書のヘブライ語（２） ヤボクの渡しとヤコブ（創世記32章23－33節）

創世記32章にヤコブがヤボクの渡しを渡し、なぜか神と格闘したという不思議な箇所があります。

そこではヤコブが「ヤボクの渡しを渡った（ヴァイヤボル・エト・マアバル・ヤッボーク）。彼は彼らを連れて、その川を渡らせ（ヴァイヤアビーレーム）、彼の所有するものも渡らせた（ヴァイヤアペール）。だが、ヤコブは一人だけで残った。すると、男が彼とともに夜明けまで格闘した（ヴァイイエアーベーク）。彼は彼に耐えられないことを見ると、彼の腰の関節を撃ち、彼との格闘のなかで（ベヘアーブコー）ヤコブの腰の関節は外れてしまった。」一連の語呂合わせの中で、神がヤコブに尋ねます。「あなたの名前は何か」。これに対してのヤコブの応答は「ヤコブ」の一言だけでした。実はこの箇所は語呂合わせの中からヤコブの名前が浮き立ってくるようなレトリックになっているのです。

（大学宗教主任 田島 卓）

大学宗教部主催 秋季特別伝道礼拝企画 スペシャルミュージックサービス のお知らせ

日時：10月9日（水）17：30－19：00
場所：五橋キャンパス 押川記念ホール

札幌にあるカナン・プレイズ・チャーチ主任牧師でワーシップリーダーとして多方面に活動している長沢崇史牧師とTGCFによる賛美集会です。長沢牧師が作曲した賛美歌は日本だけでなく世界中で歌われています。

どなたでもご来場いただけます。
ぜひお越しください！



東北学院宗教センター編「水曜通信」第40号
2024年9月4日発行
発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司
東北学院宗教センター TEL：022-354-8310
〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1
Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp



宗教センターHP